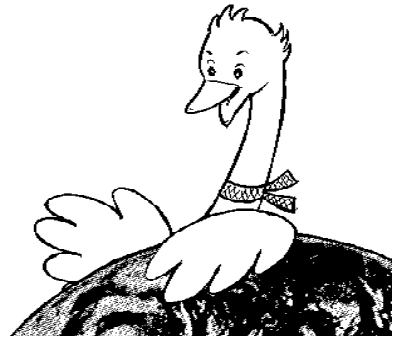


快適地球のつくりかた

いつもロハスで… 19



未来を大切にするために「あらキャナル君、今日は突然どうしたの？」年が明け、寒さはまだ厳しいけれど、太陽の日差しが少しずつ明るさを取りもどしつつある日のこと、ネコおばさんの家をたずねた。「旅支度？どこかへ行くの？」「うん、以前に旅した世界中の友達をたずねてみようと思って。…昔見たぼくの大好きな自然の景観が、ここ数年でずいぶん変わってきているって手紙をもらったんだ。ぼくはどうしても自分の眼でその変化を確かめてみたいんだよ。」「まあ、じゃしばらく留守にするのね。…いいわ、キャナル君の部屋は見ておいてあげる。ところで、もし時間があるなら、今までのおさらいをしてほしいんだけど。」とおばさんがいった。「ぼくもそのつもりで来たんだよ。…さて、これまでいろいろ勉強してきたよね。最新の科学技術で地球の未来に役立つ事、環境のためにぼくらができる事、実際に行われている様々な知恵を学んだけれど、おばさんは何か思う事がある？」「あたしはキャナル君にいろいろ教わって、関心が湧いてきて自分で調べるようになったのよ。今もっとも問題にされている地球温暖化問題で、最新科学技術を応用した対策はとても面白かったわ。」「へえ、例えばどん

なこと？」「温室効果ガスの代表的なのが、二酸化炭素CO2だってことも最初は知らなかったんだけど、その二酸化炭素を出さないための技術よ。…この手帳には、今まで学んだことが書いてあるんだけど…え〜と、水素と酸素の化学反応を利用した燃料電池の開発、あれは素晴らしいわね。これから大いに期待できそうよ。それから空気の熱でお湯を沸かしたり、逆に冷房できたりするヒートポンプもとても素敵ね。それに、光触媒の酸化チタンとやらを使って空気や水を浄化したり、雨を利用して汚れを落とすというの、省エネでとても気に入ったわ。キャナル君はどうだった？」おばさんは手帳を開いて、まるで自分がその科学技術を開発したかのように誇らしげにいう。「ぼくはね、実現には一番時間がかかりそうだけど、常温核融合の技術には密かに期待しているよ。まるでアシモフのSFを読んだ時のようにワクワクするんだ。それと、二酸化炭素を地中に封じ込めるといふCO2地中貯留技術にも、スケールの大きさを感じたよ。」するとおばさんは思い出したように、「そうそう、去年一躍有名になったバイオエタノールで、食料にもなるトウモロコシを燃料にするというのは、今も腹立たしさをおさえられないわ。石油の値上げでアメリカが小麦や大豆の畑を燃料用トウモロコシ畑に変えてしまったせいかな、最近じゃ食料品が軒並み値上がりし

てきて、これからどうなるのかとても心配よ。だから、日本海で海藻をうんと育てて、エタノールをつくるという技術にはとても感心したわ。早くその計画が軌道にのってほしいわね。」といった。「うん、ぼくもあの日本海で海藻畑には期待してるよ。それと、電気を使わない非電化製品の話には、ぼくはとても惚れ込んでしまったっけ。」おばさんがうなずきながら、「…それから一番衝撃的だったのは、温暖化の影響で北極の氷が溶けて、白クマが絶滅するかも、という話だったわね。手遅れにならないうちに、なんとかしなくっちゃ。だから環境のために使われるなら、環境税があってもかまわないと思うわ。」と力強くいった。「ぼくたちひとり一人ができることは本当にちっぽけだけど、寄せ集めれば大きな力になるね。…友達の名バホ・インディアンに戒めには、「われわれ人間は一生のうちに受ける大地の恵みを、死ぬまでに返さなくてはならない」とあって、返せないほど多くのものを収奪してはいけないんだ。自然の生き物はみんなこの法則に従って生きているけど、人間だけはいつしかはずれてしまった。科学技術でかなりカバーできるとしても、やはりみんなの力がなければ、絶対地球は守れない。…さて、ぼくはそろそろ出かけるよ。帰ってきたら、もっといろんな話をしようね。」

